

世界の女性は連帯する100年前から 国際女性デー中央大会



3月8日、「大軍拡よりいのち・くらし第一に かえるな憲法 核兵器禁止条約への参加を」のテーマで今年の国際女性デー中央大会は開かれました。大会に先立って、銀座パレードが行われました。ミモザの花を持ち、CU東京の仲間もたくさん参加しました。全世界のとりくみとなっている国際女性デーです。世界の女性と手をつなぎ、平和、生活の向上とジェンダー平等へと呼びかけました。CU東京伊東弘子副委員長が大会の司会でした。

春の組織拡大月間がスタート

組織拡大月間に4月を準備期間に、5月、6月を本番に、組織の7%を目標に取り組みます。本部では3月26日の学習交流会議で意思統一。今年、結成15周年、到達に確信をつかみ新たな前進をめざします。

1) 支部で話し合い計画を立てる。

- 2) 組合員に声をかけ参加を呼び掛ける。組合員の交流（花見、メーデー、レク等）。
- 3) 「変えるリーフ」、CUリーフで組合を知らせる宣伝。
- 4) 労働相談に応える体制強化をはかるなど進めます。6月24日に第15回大会を開催します。1700人を超え新たな峰を築き迎えましょう、

〈懇談しました〉

ほっとプラス

藤田孝典さんと懇談

「若い人がスタッフとなり活動」
運動を支える



2月21日 NPO法人ほっとプラスの藤田孝典さんと労働会館で懇談しました。藤田さんはこの日も取材で東京に来ていました。NPOほっとプラスの最近の活動、スタッフのことなど、年間800件前後の相談をうけ、とりわけ住居の相談が多いことを伺いました。

ほっとプラスのスタッフは藤田さんの考えや行動に共鳴した若い方が、ボランティアに近い状態で事務所に集まり一緒に、「夜回り活動」含めて参加されているそうです。

CU東京については、「素晴らしいですね」と話され、労働組合は大事で連携をはかっていると話します。今後、活動の連携なども話し合いました。懇談には、鈴木、松井各副委員長、高木書記長が出席しました。

新婦人豊島支部委員の会議で CUを説明

「組合は働く人の権利を守ります。
憲法に保障されて団体です」



松崎執行委員の紹介で、新婦人豊島支部の班委員会会議に参加させていただきました。「働く人は一人では弱い立場です。憲法は28条で組合をつくり、守ることを呼びかけています。」

CU東京は、働いている人は学生から高齢者まで加入できます」と説明しました。また、組合（CU）はみんなで作る組合で、ぜひ

訃報



長く労働運動に携わってこられた平山和雄さん(現・CU東京顧問)が、闘病入院中の2月21日未明にその生涯を閉じられました。

享年76歳。

「故平山和雄さんを偲ぶ会」ご案内

すでにご家族によりご葬儀は済まされました。私どもは、故人の業績や思い出を語り故人を偲びたいと、ご案内申し上げます。

記

日時 2023年4月5日(水) 14時～1時間30分程度 受付13時30分を予定

会場 東京労働会館7階ラパスホール 豊島区南大塚2-33-10

参加費 一人2,000円 (献杯程度)

呼びかけ人 佐藤義見 (CU東京執行委員長) 高木典男 (CU東京書記長)
白滝 誠 (東京地評副議長) 井澤 智 (東京地評事務局長)

◆なお、準備の都合上3月30日までにCU東京にTEL・FAX・メール等をお願いします。

力を貸してほしいと協力をお願いしました。

参加者からは「わたし加入しています」「リーフをください」の声が上がりました。説明会には、高木書記長、寺川書記次長が出席しました。

CU東京は、多くの人、団体にCUを知ってもらう活動に力を入れています。

拡大進んでいます

阿佐ヶ谷駅で宣伝中に声かけられ
逆に、「CU東京への協力を」と頼み、
組合員に迎える

1月にJR阿佐ヶ谷駅で、わたしは、物価高騰なのに年金引き下げ、上がらない賃金、ソ連のウクライナ侵略、北朝鮮の繰り返されるミサイルの発射などに軍事力増強、安保3文書のなどの岸田内閣の政治に反対しましょうとマイクで訴えていました。その時、偶然に知り合いが通り、声をかけてきました。「元気でやっているね」、「もう70歳、手を貸して」とつい声を掛

CU東京本部執行委員の飯塚美智子さん
(あだち支部)

3月3日にご逝去されました。

左の写真は、
「はたらく女性
の東京集会」に
参加して
(左から2番目)



下の文は、CUあだち3月号に寄せた文です。

組合員100名達成おめでとうございます。今後はますます役割が大変になりますがやりがいがありますね。世間では賃上げの動きになっていますが、本当の意味での賃上げをしたいですね。スローガンだけの賃上げでなく、労働者が生活向上できる本当の意味の賃上げに行きたいです。CU東京あだちの今後の活躍に期待しています。

飯塚美智子

「ルー随想」 —ジェンダーを考える—

「自分の時間」を取りもどすために
— 労働時間の短縮を!! —

江戸川支部 新木輝代

先日友人たちとの「ランチ会」があった。「物価高騰」「食しい年金」「平和」「新しい戦前」などの言葉が行き交う中、一人の友人が「今、孫と夫との世話に疲れている」と語り出した。

一働きながら家事や子育てをして、やっと「自分の時間」を持てる時になったのに、長時間労働を強られている息子家族の孫たちの世話と、定年退職して自宅にいる夫の世話に追われている。私の人生ってずっとこんなものなのかと、むなしさを感じている—と、言うのである。

何十年前だろう? 「24時間、働けますか」という栄養ドリンクのCMが流れていた。女性は家事・育児を担うことを前提に男性に長時間労働を強いていた。働く女性が増えている現在でも、低賃金・長時間労働の実態は当時と変わっていない。長時間労働が家庭生活や子育て、個人の生活の喜びを奪っている。

早稲田大学名誉教授の浅倉むつ子さんは、「労働時間短縮問題にあえて生活時間という発想を持ち込もう。人生で大切な生活時間が長時間労働で奪われていることに気づこう」と話された。(3/23 東京地評女性センター主催「春用学習交流会」)

労働時間短縮を実現させて、家庭生活に息子さんたちが戻ってきたなら、友人も「自分の時間」を取り戻すことができるだろう。夫さんの生活の自立は今後の課題と残るけれど・・・。

けました。その後、建設関係の相談があり、急遽、「知恵」貸してとお願いし、二度、三度会う機会をもち、CU東京のことを話しました。本人は昨年退職、一時体調を崩し、今は、健康をみながらになるが、「できる範囲で協力するよ」と快く加入してもらいました。

(団体支部 高木)

三多摩協議会

第二回目、塚本弁護士が講義 「労働時間は一日8時間、週40時間を超えてはならない」



2月18日の労働法講座の二回目は「労働時間、休日、時間外労働、36協定」についての講義でした。講師はCU三多摩協議会の顧問で八王子合同法律事務所の塚本和也弁護士でした。

労働時間は一日8時間、週40時間を超えてはならないことや、変形労働時間制、みなし残業問題について話されました。

また、36協定とは時間外・休日労働に関し、その事業場の労働者の過半数を組織する労働組合や、労働者の過半数を代表する者と使用者との間で書面による協定を行い、労基署に提出して効力が発することなどお話しされました。

最近の労働相談事例三多摩協議会

国民の暮らしに大打撃を与えている物価や電気ガスの高騰が止まらず。小規模事業者もインボイス制導入での消費税負担を強いられる局面です。こうした中でCU三多摩に寄せられている労働相談事案は、①コンビニ・ローソン店舗閉鎖による長期パートの解雇、②病院での看護師長によるパワハラと残業代の未払い、③大学への長期派遣雇用からの短期への一方的変更、④中規模運送会社での生活破壊の低賃金長時間

労働からの脱却、⑤警備会社の変形労働による夜間残業代の未払いとわずかなミスによる雇い止め、

⑥タクシー会社に21年勤務でも退職金なしで事業資金が準備できない。⑦1年ごとの有期雇用で従来は自動継続だったが宿泊客と他の従業員を不快にさせたとの理由から雇い止めされた等々、さまざまな職種に多様な相談内容です。

こうした相談の特徴は高齢者や女性に多く、病を抱えている方もいて弱い労働者が排除されている現状が見えています。これらの相談に対応する相談員も高齢となりつつあり、「労働法の12回連続講座」(第3土曜日の午後・途中受講者も募集中)を開催し、実践的な交流をすすめ、後継相談員につなげる努力をしています。

(書記次長 宮本 一記)

■主要8労組の呼びかけで、フランスでは今世紀最大の350万人の年金デモが広がっています。マクロン大統領の年金改革(支給開始年齢の引き上げ、満額支給に必要な拠出期間の延長など国民負担増を求めるもの)に反対しています。日本では、コロナ禍、物価高騰のなかで、連続して実質年金削減を強行しています。国民的課題、大きな闘いが求められます。■労働組合をアピールする、共同のチラシが全国・東京の各地で配布されています。通称「変えるリーフ」です。見ていますか。東京版には東京の組合を掲載。トップがCU東京です。誰でも一人でも入れる組合、年間400件の労働相談に応える組合と紹介しています。「権利手帳」、CU組合リーフと合わせ、全組合員に渡し、この春、労働組合を知らせていきましょう。■顧問の平山和雄さん、執行委員の飯塚美智子さんが亡くなりました。あらためて心からご冥福をお祈りいたします。平山さんはCU東京結成の中心の一人、昨年まで、副委員長を担い活動を牽引してきました。現在、CU東京は15周年を迎え、1700人目前です。お二人の思いを受け、新たな前進をめざしたいと思います。